

## 第2回平田地域協議会会議録（概要）

日 時 平成18年2月2日（木）午後1時30分～4時15分

場 所 ひらたタウンセンター 集会室

出席委員 12名

1号委員 石黒一喜、丸山賢治、阿部時男、石黒 均、石川敏行、高橋絹子  
菅原律子

2号委員 佐藤富雄、太田美佐子、小林隆逸

3号委員 佐藤達也、佐藤良二

欠席委員 1号委員 阿藤 勝、2号委員 佐藤きく子、3号委員 富樫文雄

出席職員 平田総合支所長：佐藤富雄、地域振興課長：齋藤啓一、市民福祉課長：石黒吉春、  
健康福祉主幹：久松勝郎、建設課長：鈴木良寿、産業課長：前田茂実、平田教育  
振興室長：齋藤善和、地域振興課地域振興主査：佐藤良広、地域振興課地域振興  
係長：後藤学、企画調整課地域振興室調整主任：斎藤 徹

### 会議日程

1. 開 会

2. 会長あいさつ

3. 平田総合支所長あいさつ

4. 会議録署名委員の選出

5. 協 議

(1) 平成18年度酒田市地域づくり予算について ……地域振興課

(2) 中山間地拠点（仁助新田地区）整備構想について ……地域振興課

(3) 東陽小学校の跡地利用について ……教育振興室

(4) 生活交通バス等の運行について ……産業課

(5) 18年度の本協議会の持ち方について ……地域振興課

6. 意見交換

(1) 地域づくり課題等に関する意見、要望について

(2) 旧酒田市のコミュニティ組織の現状について

7. その他

8. 閉 会

1 開 会 …… 進行を務める齋藤地域振興課長が宣言、また欠席委員を紹介する。

## 2 会長あいさつ

新市では新年度の予算編成作業も大詰めとなっており、いよいよ本格的に新市の活動が地に足を付けてきた時期を迎えていると言える。

本日は第2回目の協議会である。私自身も新しく発足したこの会の運営の道筋を十分描いているものではなく、また、この会の責任の所在などが必ずしも的確、明確になっていない感もある。しかし、本来、市の執行部には歓迎されざるものとも言えるこのような協議会が、合併協議の中で大変な難儀の末に誕生し、今、新市としての新たな出発に際して果たす役割は極めて大きく明確であると言える。私たちはそれを実現、具現する相手としての酒田市をも今後十分理解しながら、期待に応える必要がある。

委員の皆さんが与えられた役割を真摯に受け止め、それぞれのエリアの課題を、ある意味では個人としてまたは組織の代表として、そして協議会全体として我々に課せられた職務に大いに力を発揮して行きたい。難しい役割ではありますが理解しながらよろしく願いたい。

## 3 支所長あいさつ

友好町の岐阜県海津市（旧平田町）の市長、議長が合併記念式典へ出席のため来庁され酒田市長との面談もあり、本協議会の予定日時を変更していただいた。子供たちの交流は今後も継続することが市長間で合意がなされた。

現在、18年度予算の最終調整を行っている。平田支所としては後ほどお示しする地域づくり予算をはじめ、4課1室に係るハード・ソフト事業について、4名の地域出身議員や会派とも連携し市役所担当課との協議などに努力してきている。

さて、本日は2回目の協議会であるが、委員各位の地域協議会への思い、期待、考え方などにまだ若干の温度差もあるのかなと思っている。会長は合併協議会の委員の経験などを通じ、これまでの経過も含め理解をいただいている。各委員へ今後一層情報提供を密にしていきたい。

第1回の会議で市長のあいさつにあったように、まずは住民の不安と不満を最小にする努力をし、その中から市民の夢と希望を最大にしていきたいと考えている。委員各位は特定の組織だけにとらわれておらず、複数の立場を有しておられるので、日常生活、仕事、自治活動、福祉やボランティア活動などで日頃感じられていることを、委員の目線で率直に、ざっくばらんにご意見をお願いしたい。

そのためにも委員が気を遣うことなく自由に発言できる会の雰囲気的大事であろう。会長は経験豊富であり、委員が意見を出しやすい雰囲気づくりもお願いしたい。忌憚なく意見を出し合う中から進んで行きたいと考えている。

## 4 会議録署名委員の選出

丸山賢治委員を選任

## 5 協 議

議長：会長 小林隆逸

(1) 平成18年度酒田市地域づくり予算について …… 齋藤地域振興課長

委員

地域協議会運営事業や生涯学習事業等の内容を、もう少し具体的に説明してほしい。

齋藤地域振興課長

地域協議会運営事業は、年報酬が2万円の15名分で30万円が主なものである。

齋藤教育振興室長

教育関係では、中学生の海外研修事業が市で一本にまとまった事が大きな変更点であり、その他は大きな変更はない。

委員

地域づくり予算は、それぞれの課に配分になると思うが、不足額や不用額が出た場合の対応はどうか。

齋藤地域振興課長

予算は、課ごとではなく一本の予算になっている。事業費の精査をし、どうしても足りない場合は補正予算での対応も出てくるし、不用額は繰越金になる。

委員

予算としては、査定で減額になったのか、前年実績を基本に精査した結果での減額なのか。

齋藤地域振興課長

地域づくり予算については、前年度実績ベースで予算要求し、査定を受け、ほぼ認められている。今後、平成19年度に向けて、地域協議会の意見要望等をいただく機会を設け意見の反映に努めていきたい。

(2) 中山間地域拠点(仁助新田地区)整備構想について …… 佐藤地域振興主査

委員 住民は、人に頼ってやってきた面がある。今までの手法では限界であり、住民が自ら動かないといけない。また、山間地には観光資源などスポット的な整備はなされてきているが、滞在するところがなく経済アップにつながっていない。

委員 仁助新田地区の整備構想の議論は田沢小学校の改築の時から始まっている。人が住むためには医療、学校など利便性が欠かせないし、緑町では、当時から小学校は2校体制が理想であるという意見書を出し(当地区に学校整備などを行う)開発を考えてきた。住んでいる人ががんばることが必要である。

委員 仁助新田地区については、行政に頼りきっていた。若い人が定着するのは難しいのが現実であり、若い人が目を向けてくれるような施策でなければならない。移動手段のない高齢者が多く、移動販売車がなくなって大変である。山間地に行政サービスの窓口や商店が必要である。

委員 配食サービスで訪れると家が古くても出て行った若い人たちのところには行かないのが現状で、高齢者は住み慣れたところが一番良いと感じているようである。高齢者世帯の危険な住宅も多く当地区に生活支援ハウスの整備が望まれる。

委員 地域の人流出を防ぐのか、他の地域から人を呼び込むのかで考え方が違う。方向付けをはっきりしていくべき。団塊の世代を呼び込み、第2の人生の場を提供することも考えられる。

委員 めんたま畑に、山間部の人が生産物を出して酒田の人が買いに来る。山間部に建設し人の流れを作っていくこともできたのではないかと残念である。これからでも人の流れを作ることは重要と考える。高齢者が買い物に行ける条件整備がなぜできないのか。

委員 コミュニティは行政、店は民間と区分されているが、複合施設にしたり、宅配システムなど行政と民間が連携した施策が必要なのではないか。

委員 困ったと悩んでいるだけではなくて、仁助新田のAコープ運営や移動販売車の運行など、行政でも少しずつできるものからバックアップするべきではないか。地元の店もそうだが、酒田の中町やバイパス沿いのシャッターの下りた通りも同じで、三川をあれこれ言う前に地元の人がもっと利用すべき。

委員 山間部の高齢化率は35%、ある地区では40%を越えるところもある。高齢者への福祉サービスは、合併で良くなったものもあり低下はしていないようである。しかし、山間部での日常生活は大変厳しいのが現実であり、特に買い物には苦労している。区長が中心になって、近所などの小さな範囲で日々困っていることを話し合い、皆でできることを考えてはどうか。女性グループや商工会の知恵を借りることもできるはずである。

久松健康福祉主幹 福祉政策については、課題解決のための政策に負われて、地域づくりの視点での長期的な福祉政策まで手が回りきれなかった面がある。これからは地域力プラス行政との協働が重要である。

委員 これからの中山間地の整備には3つのポイントがあると考えている。地元の必要とする施設の整備であること。旧市内の人たちが求めている施設などを整備すること。

経済力が重要であり、山、田など資源はたくさんあるので、生産性の高い地域にかえるための知恵を出すことである。

齋藤地域振興課長 いろいろな意見をいただいた。これらを整理して次回にまた意見をいただきたい。

(3) 東陽小学校の跡地利用について …………… 齋藤平田教育振興室長  
特に意見なし

(4) 生活交通バス等の運行について …………… 前田産業課長  
特に意見なし

(5) 18年度の本協議会の持ち方について …………… 佐藤地域振興主査  
委員

広報に委嘱状交付の写真と記事が載っていたが、委員は誰なのか載っていない。地区でよく聞かれるので対応してほしい。

齋藤地域振興課長

次回の平田版広報に掲載する。

## 6 意見交換

( 1 ) 地域づくり課題等に関する意見、要望について

委員

農業関係で、新たな農業構造改革の施行により平成19年度から環境保全対策が追加され、環境保全活動を実施するとお金が貰える制度ができた。今まで道路の法面や水路の草刈等を実施してきたのは農家であり、生産組織だけで考えるのではなく、自治会組織への制度の周知を図ってほしい。

前田産業課長

平成19年度からの新たな農業構造改革で、農家だけではなく、非農家も含め地域で農村を守っていくという制度である。2月17日の生産組合長・区長合同会議で説明する予定であるが、皆さんにも次回詳しく説明したい。

委員

婦人会活動と交通安全母の会の活動が1地区の脱退で組織が小さくなり大変である。地域で話題にしていただきたい。

( 2 ) 旧酒田市のコミュニティ組織の現状について …………… 齋藤地域振興課長

齋藤地域振興課長

コミュニティ振興会活動への移行を検討していただきたい。八幡地域、松山地域は検討に入っている。簡単に結論が出るものでないと思われるが、次回以降話題にしていきたい。

7 その他

久松健康福祉主幹

平田診療所の医師が金曜日に研修に行く時の代わりの医師派遣について、平成17年度限りで終了したいと県の意向があった。5月までは何とかかなりそうであるが6月からは厳しい。診療時間についても、6時までやっているが、松山診療所に併せて5時15分にしたいという考えもあり調整している。

8 閉会

( 年度内にもう一度、第3回平田地域協議会を開催したい旨を連絡し閉会する )